

# 学校運営協議会委員 学校評価アンケート回答結果

項目	経営目標	本年度の重点	具体的な方策	評価	分析結果	改善策	コメント欄 ◎感想、◆意見・要望
青梅学の推進	自分の住むまち青梅を愛する生徒を育成する。	3年間の総合的な学習の時間を中心に計画的に「ふるさと青梅(青梅学)」を展開する。	学年毎に自然・歴史・文化・産業・環境・発信等をテーマに学習する。  地域調査充実のため、地域人材・地域教材を活用する。  主体的で探求的な活動を工夫する。	B ○  A  A	4.9	3年目の取組で全体的に数値が向上した。総合的な学習の時間やボランティアで成果が出始めている。  継続する。学習発表会や各種お便り、HP等で活動を紹介します。西中校区一丸で青梅学を系統的に定着させる。	◎地域ボランティアに参加している生徒の活躍をよく目にします。Good！ ◎地域の評価も高いです。 ◆何か市役所との連携があると良いと思う。 ◎3年間の青梅学1期生が誕生し、発表会を開催した。多摩ケーブル、西多摩新聞等の外部メディアへの発信もできた。 ◎青梅学の取り組みも3年目を迎え、昨年より着実に充実しており、11月に行われた発表会でもその成果が如実に表れた。 ◎3年間の学習の成果がしっかりと出てきている。青梅市主張大会での入賞は素晴らしかった。ほぼ西中生が賞を独占している状況であった。青梅学の指導が成果としてしっかりと表れていた。また、学校だよりで作文が紹介されたのはとても良かった。地域の回覧などでも読まれるので西中生の素晴らしさと同時に青梅住人の大人として、地域への思い、関りを考えさせられた。(個人情報になってしまうかもしれませんが、学校だよりで顔写真を載せたいです。)西多摩新聞など、地域の新聞などに掲載され、西中学校の取り組みが積極的に発信されたのも大変良かった。継続して地域広報誌は利用したい。 ◆今後、更に地域の人材を生かした取り組みを推進してほしい。 ◆学校だよりでの紹介は良かったが、写真が少ないと感じる。個人写真が難しいなら、表彰式の写真などを掲載してほしい。写真掲載も考えてほしい。魅力ある新聞づくりを！ ◆生徒だけでなく先生も一緒になって学んでほしい。ボランティアは継続してほしい。 ◆地域の人にもっと伝わるといいと思います。
学力向上の指導の工夫	学習の基礎・基本の習得、課題解決のできる思考力・判断力・表現力の育成。	学習の基礎・基本を確実に身に付け、仲間と共に学習する楽しさを知る。	家庭学習の習慣化に向けて、適切な方法を工夫する。  興味・関心を引き出す教材・教具、協働学習等を工夫する。  タブレットPC、電子黒板等のICT機器を適切に活用する。	B  B ○  A	3.6	ICT活用や学習教材、指導方法の工夫が高く評価された一方、家庭学習の習慣化に向けた取組が弱い。  家庭・小学校との連携でメディアコントロール指導と合わせて強化を図る。スタディアプリの組織的活用。放課後の学習支援。	◎授業参観で各教科ICTを活用して取り組んでいるのは評価します。 ◆授業規律についてももう少し頑張ってもらいたい教科もありました。 ◆英語科のクイズラリーのように楽しく学べる工夫は子供たちに良いキッカケになると思う。 ◆スタディサプリ・ICTが上手く利用されている。中間・期末試験前に図書館で自習できる様になっているが、家庭学習の習慣化につながると良い。 ◆ICT活用や家庭学習の定着に継続的に取り組んでいる。学力向上は生徒や保護者のみならず、地域にとっても関心を持つところでもあるので、更なる工夫、努力を期待したい。 ◎電子黒板、アイパッド、協働学習(グループ学習、グループ発表)が当たり前のように展開できていて、魅力ある授業が展開できている。生徒もよく授業に参加できていた。(授業力に厳しい教科担任はいるが・・・)数学での習熟度別学習は良い。可能な教科は実践していきたい。 ◆永遠の課題かもしれないが家庭学習には力を入れていきたい。様々な試行錯誤をしてほしい。毎年の進路を見ても、偏差値上位校への進学が少ないと感じている。 ◆スタディサプリでの小学校の復習はできているのでしょうか。これで家庭学習が浸透して利用できていますか。私たちはちょっとわからないので検証してほしい。併せて、小中連携での9年間の教育課程の取り組みをしっかりと考えてほしい。 ◎メディアコントロールは家庭や学校だけでなく専門家の意見を取り入れながら常日頃から子どもたちに意識させられるように仕組み作りが必要と感ずます。 ◆家庭の事情もあると思いますが、小学校との連携を深め、学力の向上を期待する。
連携教育の推進	地域・家庭から安心され、応援される学校になる。	小学校や家庭・地域等の関係機関の教育力を取り入れた社会に開かれた教育活動を行う。	青梅型コミュニティスクールとして学校運営協議会との連携を密にする。  小中連携強化のために合同研修会を充実させる。  地域の活動にボランティア等で積極的に参加する。	A  B ○  A	4.4	昨年以上にスクリレと学校便りで活動を紹介し成果が表れ始めた。小中合同の取組の発信が不足。  小中合同の取組強化と地域人材の活用、家庭・地域への活動報告を一層大切にする。	◎地域とは良好な関係です。 ◎スクリレで生徒の様子がわかりとても良いです。この調子で維持をお願いします。 ◆小中連携も良く取り組んでいると思いますが、教科指導や生徒指導の具体的共通理解と実践で成果が上がると思います。 ◆地域の体育会や市民運動会への参加などでアピールは良いのでは。 ◎学校運営協議会が適宜開催されている。地域のお祭りや資源回収等のボランティアに積極的に参加してる。 ◆学校だよりを地域で回覧するなど、地域との連携に取り組んでいる。開かれた学校づくりに向け、更なる推進を期待する。 ◎コミュニティスクールとして意見交換などはしっかりとできている。また、ボランティアに関しては、地域での評判がとても良いので継続を望む。学校がオープンで大変良い。校長、副校長の丁寧な説明や、何でも話してくれるオープンな気持ちが地域から評判が良い。小学校との連携はだいぶ垣根がなくなってきた。年3回の小中の研修会にも学運協のメンバーが出席でき、学校の様子が分かって大変良い。3校のオープンなところが素晴らしいと感じる。今後とも学校を閉鎖的にはしないでほしい。 ◆小中の取り組みを更に保護者、地域に発信してほしい。学校が頑張っていることが地域にはわかっていない。この点が地域に浸透すれば、更に五小、六小、西中に対する思いが更に高まってくると思う。 ◆スクリレは情報が大変よくわかって良い。ただし、これを見ない保護者もいるので、これに頼ることなくほかの伝達方法(学年だよりなど)もしっかりと発行してほしい。 ◆一部地域だけでなく、学区域全てにおいて信頼されるような取組を継続していただきたい。 ◎特にボランティア活動が地域とのつながりに一役買っていると思います。

項目	経営目標	本年度の重点	具体的な方策	評価	分析結果	改善策	コメント欄 ◎感想、◆意見・要望
特別支援教育の充実	特別支援教室の生徒及び通常級の生徒で支援の必要な生徒に特別支援教育の実践をする。	インクルーシブ教育の視点に立った教育活動の推進を図る。	様々な特性をもった生徒たちが互いを尊重し、協力する集団作りを工夫する。 教室や学年フロア等のユニバーサルデザインを意識した環境整備を行う。 特別支援教室やSCをはじめ、各支援員と連携した教育活動を実践する。	A 3.9 B ○ A	全体的に高い。生徒・教員の回答が高い達成度であった。一方、保護者が安心できる生活環境にやや不足していると考えている。	個性を認め、高め合う学校として今後も教育環境を見直し、教育活動全体で組織的に実践していく。教員がユニバーサルデザインの視点を研修する。	◎生徒と保護者の満足度に差がある？ ◆年々、不登校の生徒が増加する中で、特別支援教育は深刻な問題である。SC等の外部専門家を有効に活用できると良い。 ◎アンケート結果で生徒と保護者の満足度に差が生じている。インクルーシブ教育への取り組みが保護者に十分伝わっていないのではないかと懸念する。保護者が理解を深めることを期待する。 ◎個々への対応の時間も少ない中で努力できている。難しいケースなども丁寧に対応ができていていると感じる。教室の環境なども良くなってきている。特性を持った生徒がいるが、対応に苦慮する場合は専門機関に繋げていくことが大切である。専門の先生方に任せることは任せ、教員がやるべき仕事を進めた方が良い。 ◆特別支援の先生を講師に招いて研修を深めてほしい。クラス内に該当の生徒が年々増加している傾向があるので、若手の先生方にしっかりと指導しておく必要があると感じる。 ◆今後、教員だけで学校運営は難しいと感じる。地域の良き指導員、補助員や支援員などは一人でも多く確保し、スタッフの一員としたい。 ◆一人ひとりに対応していくことは大変だと思いますが、西中に通ってよかったという環境づくりが大切だと思います。
心の教育の充実	人権教育を柱として、心の教育を推進する。	人権尊重の精神にたち、自他を大切に育てる。自尊感情及び自己肯定感を高める教育活動の充実を図る。	生徒の人権を大切に敬称呼びや丁寧な言葉掛けを行う。 清掃活動や掲示物等を大切に、生活環境を美しく整備する。 特活や総合、部活等を通して達成感や連帯感を高揚させる。 協働学習から互いの考えを認め合い、高め合う指導を行う。	B 4.0 A A A	全体的に高い達成度であるが、生徒の地域や学校での挨拶が保護者に課題とされた。	引き続き特別活動、道徳教育を活かし、生徒たちによる思いやりのある温かい学校作り、応援される学校作りを目指す。	◎人権尊重教育の意識が高いと思います。Good！ ◆合唱コンクールや運動会を通して思いやりの心や協調性等の集団行動に必要なマナー等を身に付けられると良い。 ◆自分を大切にするとともに他の人を思いやるといった人権感覚の育成が大切であり、西中では人権教育の充実を図っていると史料する。ニュースなどで人権意識に欠けた事件の報道を見ると、道徳教育の重要性を感じる。学校生活だけでなく地域の方との交流を通じるなどした、人権意識のさらなる向上を期待する。人権教育は、生徒たちが社会に出た時にこそ成果が認められると考えることから、継続的な取り組みを期待する。 ◎生徒の心が安定している。例えば、体育館に集合し、教員の掛け声ひとつで静かな雰囲気を作り出すことができている。自己肯定感を高めるために個々の個性を重視してほしい。それは、教員の声かけひとつで変わってくる。いつまでもダメダメ指導では、自信のない生徒、自立しない生徒を育てることになるので、良い言葉かけをして自信を持たせる指導をしてほしい。協働学習でお互いの意見を聞く中で、自分とは異なる意見を聞いて勉強し、更に自分の意見を深めていくことができている。だいたい西中はできるようになってきたと感じている。もう一歩。 ◆挨拶が問題になっていたが、地域であいさつするメリットデメリットがあるので、上手く臨機応変に指導してほしい。 ◎3年間という期間の中で大変な課題だと思いますが頑張ってください。
進路の実現	キャリア教育の視点に立った進路指導を推進する。	3年間を見通した系統的・計画的な進路指導を実践する。	3年間を見通した計画で、進路指導の充実を図る。 家庭や地域との連携を図り、充実した進路指導を実践する。 小学校から中学校、そして高校へとつながるキャリアパスポートを活用する。	B 3.4 ○ B ○ B	生徒・教員の評価に対して保護者の回答に課題が見られる。家庭で生徒と保護者が進路を考える機会が少ないものとする。	本校のキャリア教育の流れを保護者会等の機会に説明する。そして、各学年で生徒と家族と一緒に学び・考える場面を設定する。	◎「各学年で生徒と家族と一緒に学び考える場面を設定する」これが一番ですね。 ◆中学生の段階で自分の将来像を明確に描くことを十分に自分事として捉えることができないかもしれないが、職業体験を含めて3年間で考える訓練をする ◎進路については学校に頼るのではなく、子供のキャリアデザイン設計を家庭でこそ十分に話し合う必要がある。それぞれの家庭には様々な状況があると推測するが、学校には各家庭で話し合いを行うための情報提供を発信することに期待する。特に進学については、学習塾に通う家庭とそうではない家庭では、情報量に差が生じてしまうため、生徒に対するきめ細やかな支援を期待する。 ◎1年生から3年生まで、キャリアパスポートで3年間の進路学習の展開ができています。 ◆キャリア教育は地域との連携も考え卒業生を中心に身近な先輩の話を実践することで、自分にもできるのではないかと自身につながるのではないかと ◎できる子とできない子の差が大きいと感じる。1学年の時から朝もしくは放課後に10分テストみたいなものをさせるのも手段の1つかと思います。とにかく意識付けをどのようにしていくかが課題かと思えます。 ◎キャリアパスポートの活用が良いと思います。振り返りを通して自己理解を深めてほしいです。
オリパラ（体力向上）	オリパラの精神やスポーツ、文化、環境について学び、様々な運動を工夫し体力向上を図る。	オリパラのレガシーを活用し、スポーツに興味・関心をもたせる。	パリオリンピックに出場する選手の講演会等を適切に生かす。 体育的行事や昼休みの校庭利用等を促し運動に親しませる。 体育的行事や部活動、オリパラ講演会等を通して社会性を育む。	B 3.4 ○ B ○ B ○	保護者の回答で生徒の健康体力向上への意識や取組に変化がないというものが多い。生徒も健康体力向上の意欲がやや低い。	保健体育学習及び体育的行事、部活動等、総合的に健康体力の向上について、その意義や方法を学習する。体育委員会等の生徒の活動を活かす。	◎アスリートの講演会等は生徒にとって良い刺激となっていると思います。 ◆西中独自の健康体力向上の取り組みがあるといいですね。 ◆得手・不得手があるのは仕方がないが、良い点・長所を伸ばしていただきたい。 ◆東京2020大会から5年が経過し、感覚的に薄れてしまっていることを危惧する。オリパラのレガシーを体力向上の側面だけでなく、オリンピックの理念であるスポーツを通じた文化や教育との融合、差別の禁止等や、パラリンピックの理念であるインクルーシブで多様性のある社会の実現等を今一度意識し学校教育の充実が図られることを期待する。 ◎部活動との絡みが非常に難しい。部活動が衰退しているのでは、盛り上がりが少ないのではないかと感じる。卒業生、地域の人材（サッカー、カヌーなど）など、より身近な人材の登用をお願いしたい。また、講演の際は、保護者、地域にも知らせて参加可とし、地域でスポーツ熱を高めていきたい。スポーツを地域に広げていくことも大切である。西中生がインドアになった傾向があるので、外でスポーツをしていくことが必要と感じる。例えば、昼休み西中マラソン大会としてクラス対抗で競い合ったり、学校外でマラソン大会を実施し、地域を走り、地域の人たちに手伝っていただき、地域の人に応援していただきながら何かのスポーツ活動を仕掛けていく必要がある。グラウンド、体育館をできる限り地域に開放し、その中で中学生も大人と一緒に活動できるようにしていきたい。 ◎生徒のインドア化が進んでいる ◆毎年2月に行われている青少健の事業である「親子ふれあいポッチャ大会」に参加するのも良いかと思えます。 ◆体力向上の意欲が高まってほしいです。
	感染症や自然災害に備える		感染症予防対策や日頃の健康教育の充実を図る。	A	概ね高い達成度である。保護者で分	継続する。	◎安全指導や避難訓練の体験行事が多く、生徒には良い効果があると思います。 ◆（既に参加しているところがあるのかもしれないが）校内での教育・訓練の他に、地域自治会と連携して自治会主催の防災訓練にも参加していただきたい。 ◆また、1年生で実施している「緊急地震速報」の対応も、今年度は、防災教育講座も実施されているが、男学年会による夏の熱中症対策や、防災教育講座も実施されている。

項目	経営目標	本年度の重点	具体的な方策	評価	分析結果	改善策	コメント欄 ◎感想、◆意見・要望
健康・安全	害に油断することなく、健康で、安心・安全な学校運営を推進する。	教職員が一丸となって命を守る教育を推進する。	様々な災害を想定した避難訓練や安全指導を充実させる。  外部機関と連携した専門的・実践的な健康・安全教育の推進。	A  A	<b>4.9</b>  からないとの答えがやや多かった。生徒も状況を理解し、協力的に取り組んでいる。	次年度は、分からないという回答をさらに減らせるように情報発信を強化する。	▼アンケート結果でも高評価がされている。救急救命講座も実施されているが、異常気象による夏の熱中症対策やケニア豪雨等自然災害への対応やコロナ禍で学習した衛生管理などを引き続き実践することを期待する。 ◎安全教育、健康教育を3年間のローテーションで計画できている。がん教育、薬の飲み方、性教育などの講演も、薬科大学の専門家に講演をいただくなど、外部からの講師を積極的に取り入れていきたい。 ◆学校が避難所になると考え、地域の避難訓練に合わせて、地域と連携（例として消防団に来てもらう）した避難訓練の実施を考えていきたい。できたら、生徒にその避難所のお手伝いをさせていきたい。（テント設営、品舎受付、避難者誘導、婦人会の炊き出しなどの手伝いができるのではないか）地域に防災士がいるので、その方と打ち合わせてはいかがでしょうか。
生活指導	学校いじめ防止基本方針を基にした全教職員による組織的な生活指導を推進する。	問題行動を後追いする指導ではなく、未然防止する積極的な生活指導を行う。	生徒に寄り添い判断力を養う指導をする。  生徒観察を丁寧に、変化に気づき、報連相を大切に。  集団生活のマナー違反を見逃さず、職員一丸で判断力を養う指導を実践する。	B ○  A  A	<b>4.5</b>  傾聴や話し方の研修を積み成果も出ている。保護者で分からないとの答えが多いのは生活指導に関わらない家庭が多いからだ と考える。	家庭への情報発信を強化する。また、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に向けた毎月の生徒アンケートや研修を継続する。	◆学校はいじめ防止や不登校ゼロを目指し、様々に指導していただいていると思いますが、不登校生徒がまだいるようです。保護者や諸機関と連携を深め更 にお願いします。 ◆巷では、いじめ動画のSNS拡散が起こっているが、いじめ等については毅然とした態度で、適切に隠蔽することなく、外部機関と連携して対処して欲しい。 ◎学校だよりでも道徳教育についての情報発信に努めていることや、生活の決まりについての見直しなどの改善を行っている。そのような中で、アンケート結果では保護者が「わからない」との回答が多かったのはアプローチの仕方に工夫が必要と考える。 ◎生徒対応で両者の意見をしっかりと聞きながら、丁寧に対応し、解決に至るケースが増えてきた。いじめ対応のアンケートで早期発見に努め、しっかりと対応できている。西中の生活指導の問題点は保護者対応に苦慮している点である。いつも指導が行き詰っている原因は保護者との関係であると感じる。新たな転入者も多く地元愛がない保護者、昔元気のよかった保護者など様々な原因があるが、保護者の学校に対する理解、協力が必要であると考え。今後、保護者の理解を得るためにはどのような方法をとったらよいかが課題である。
部活動	勝利至上主義に走ることなく、健全な心と体を育む。	部活動を通して、社会性や仲間との絆を育む。	ガイドラインにそって、健全育成の理念と計画で運営する。  生徒が目標を持ち、意欲を高める指導で活動を充実させる。  練習計画や会計報告を整え、保護者と連携した運営を行う。	A  A  A	<b>4.6</b>  生徒・保護者・教員が概ね高い達成度である。保護者で分からないとの回答もやや多く、部活未加入の家庭だと考える。	継続する。 専門性が高い地域人材の発掘・活用をして持続可能な活動になるように支援する。	◆部活動の存続が危ぶまれる中、生徒のために先生方が指導していただき感謝します。ご苦勞様です。大変でしょうが頑張ってください。 ◆球技等部員減少による廃部危機については近隣の中学校との連携が必要と考える。また、大人のボランティアによる生徒指導ができることが望ましい。 ◆部活動は勉強と同等に学校生活に占める割合は大きく、部活動を通じて得た体験は人生において大きな財産となる。分析結果にもあるとおり、保護者で「わからない」との回答が多いことが気になる。部活動については指導者の確保の課題があるとともに学校以外での活動も尊重すべきと考える。有意義な学生生活を送るため、部活動のさらなる充実、発展を期待する。 ◎限られた部活動のみで寂しい。 ◆西中のグラウンド、体育館を積極的に開放し、地域でスポーツを開催していく環境をつくり、そこに中学生も参加させていきたい。合同チームに対して積極的に動いてほしい。（教育委員会へ校長会からも積極的に進言してほしい）退職教員、地域スポーツ指導者等を積極的に関わってもらおうようにする。特に西中は町中に比べて放課後過ごす場所がないので、放課後、学校で過ごす時間が大切であると考えます。他市に比べ、青梅市は部活動の方針が曖昧な感じがしています。教育委員会の方針をしっかりとしてほしいと思っています。 ◆継続することが本当に大変だと思いますが頑張してほしいです。

<その他のご意見>  
西中の特色といたら「ボランティア」「地域との密着（青梅学など）」で有名になってきました。更に継続して学校の特色は継続してほしい。また、その活動が見えるようにコマーシャルしてほしい。（多摩ケーブル、西多摩新聞、西の風、市広報、学校だより等の積極的な利用をしていきたい）  
グラウンド北側の多摩川沿いの好文橋に続く道ですが、この道の利用が多いのでフェンス下に何か花を植えるとか、落ち葉掃きなどの活動が欲しいです。やったことが地域に見えるのでぜひお願いしたい。  
学校だよりに「西中生とのちょっといい話」コーナーを作って、地域で聞いた生徒の良い話を書いたらどうでしょうか。コマーシャルになります。  
バレーボール部の消滅は仕方ない事です。早めに生徒、保護者、地域に話しておくことが必要です。とにかく早めに手を打つことが大切です。  
落ち葉肥料、梅干しづくり、柚子もぎ、青梅マラソン応援、梅まつり甲冑隊などの活動も良かったです。地域の特性を生かした活動をさらに探して活動してほしい。また、そのような活動に、教員以外のメンバー（保護者、学運協、西中を応援してくれる地域の人たち等）も募っていったらどうでしょうか。西中を中心に地域の方々が多様な活動をしていくことができれば素晴らしいと思うのですが。  
西中には同窓会があります。この同窓会を何かに利用できないか考えてほしいです。会長の青木様（元青梅市役所勤務でプラネタリウムでの星座説明が得意でした）をはじめ、そろそろ地域の重鎮になっているので何かに協力いただけるのではないかと考えています。